



2008～2009年度

中津平成週報

2008～2009年度 国際ロータリー・テーマ

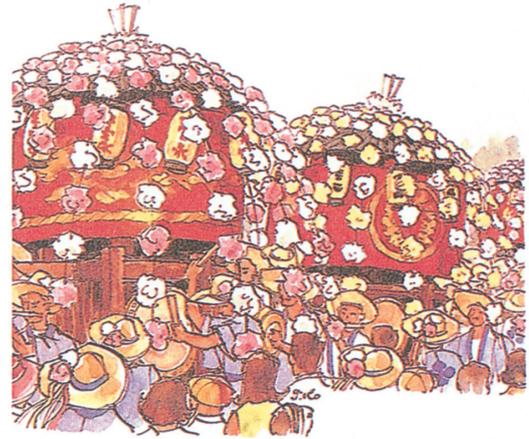
夢をかたちに
Make Dreams Real

国際ロータリー会長 李 東建

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 加来 敏男 幹事 矢頭 和敏 会報委員長 田原 和己

例会日/毎週木曜日 12:30 例会場/グランプラザ中津ホテル ☎24-7111
事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F
☎0979-22-9716 FAX 0979-22-9722
e-mail office@n-heisei.org http://www.n-heisei.org/



第923回例会 平成21年3月5日(木)

◎本日の例会プログラム

ゲスト卓話「傘鉾の歴史」 近砂 敦氏

◎次回例会プログラム 会員卓話「新入会員卓話」
20周年実行委員会

前回(922回例会)の記録 平成21年2月26日(木)

■ビジター
なし

■出席報告
会員数 29名
免除者数 0名
対象者数 29名
本日出席者 24名
欠席者数 5名
出席率 82.76%

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 7名
メイクアップ 6名
欠席者 1名
修正出席率 75.86%→ 96.55%

●メイクアップ

八坂(中津)、白石、二反田(地区大会)、
岩淵(宇佐八幡)、出納(宇佐)、若松(中津中央)

●欠席者 渡邊

◎ロータリーソング 4つのテスト

◎会長の時間 会長 加来敏男

火曜日の新聞に「おくりびと」が米アカデミー賞の外国語映画賞を受賞したとの記事が大きく掲載されていました。この映画が外国でこのような評価を得たことに私は非常に驚いています。

以前この映画がノミネートされたというニュースを聞いた時、正直なところ受賞するとは全く思えませんでした。国によって死者を弔う方法が違い、日本特有の儀式的映画なので全く理解されないだろうと思ったからです。しかし、亡くなった人の体を清め、棺に納める納棺師の仕事に就いた男性が、人と死に向き合う様を描いたその癒しの映像が評価されたようです。

後で分かったのですが、この映画は主演の本木雅弘さんが「納棺夫日記」という青木新門さんの本を読んで、是非映画化しようということから始まったそうです。彼は世界各国の葬儀事情を調べて、今回の受賞作品を監督とともに作り上げたのです。最初からこの賞を狙って作った映画だったんでしょう。このことを聞いて2度びっくりです。私も見てみようと思います。

◎幹事報告 幹事 矢頭和敏

●例会変更 別府東RC (3/12例会変更取消、3/12(木) 12:30～通常例会)、竹田RC、宇佐八幡RC

●週報受理 杵築RC

●幹事報告

・バングラディッシュに寄付する天体望遠鏡がありましたら寄贈してください。

◎委員会報告

・20周年実行委員会

【事業】米村でんじろうサイエンスショーのチケットは、小学校からの申し込みが多く、昨日抽選をしました。

【総務】本日19:00～割烹嘉乃にて実行委員会を行います。

【式典】例会終了後、委員会を行います。

◎ニコニコボックス 担当:国際奉仕委員会

○加来会長

別府に行くとき多くの外国人の方を見ます。留学生に比率が高いんでしょうね。今日の卓話は楽しみです。

○若松会員

SAAの仕事が不安定ですので正確に出来るようにします。

○矢頭幹事

宮崎に行きました。大勢の人で賑わっていました。WBCと巨人のキャンプを見学しました。イチロー選手は素晴らしいと感じました。

○出納会員

私も会議で宮崎に行きました。宮崎は人が多かったです。私は

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」 “He Profits Most Who Serves Best”

コンビニで選手を見かけたぐらいです。

◎ゲスト卓話

「APUについて」

立命館アジア太平洋大学

スチューデントアクティビティーズオフィス・課長 山下啓祐氏

APUは大分県、別府市、学校法人立命館の三者の公私協力によって2000年4月に開学しました。2008年4月現在、81カ国・地域から約2,600名の国際学生と、約3,200名の国内学生が学ぶ多文化キャンパスを創り上げることができました。APUは、地元自治体・国内外の多様な方々から多大なご支援をいただき、これまで前進してまいりました。

そして現在、APUニューチャレンジと銘打ち、2010年のAPUを目指して様々な新展開を図っています。

立命館アジア太平洋大学開学宣言 2000年4月1日

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り返してきた。人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマニズムの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

学部教育

APUは国際色豊かな環境のもとで、今までの大学教育の枠組みにとらわれない独自の教育システムを構築しています。世界の様々な国・地域から学生が集い、教員も約半数が外国籍という「マルチカルチュラル・コミュニティ」の中で、学生と教員が一体となり、民族・宗教・文化などの違いを超えて共に学び、相互に理解を深めています。

APUは英語と日本語による二言語教育システムを展開しており、これがAPUの最大の特徴のひとつとなっています。1・2回生では各学生の入学基準言語（英語または日本語）で基礎教育科目を受講しながら、同時に集中的に言語の学習に取り組み、3・4回生では日本語と英語のいずれの言語でも専門科目の授業を受けることができる言語運用能力の習得を目指します。日英両言語による専門科目の学習が、言語能力の向上だけでなく、日々の学習を通じて国際ビジネスや学術の世界で通用する高度な言語運用能力と専門的知識の獲得にもつながっています。

「アジア太平洋学」という新しい学問分野を確立するとともに、21世紀の国際社会で活躍できる資質と能力を持った人材を育成することを目的としたカリキュラム編成をしています。学部はアジア太平洋学部（APS）とアジア太平洋マネジメント学部（APM）の2学部が設置されています。

APSとは？

APSはアジア太平洋学部 (College of Asia Pacific

Studies) の略称であり、現在APUにある2つの学部のうちの1つです。APSの学生は、多様な文化や社会構造、経済システムを持つアジア太平洋の国や地域に焦点をあて、社会学や国際社会学の視点から学習を進めます。4年間の学習課程において卒業に必要な諸要件を満たすことにより、最終的には学士（アジア太平洋学）が与えられます。

この学部では、多様な文化、社会構造、経済システムを持つ各国・地域の現状を学ぶとともに、グローバル化が進む現代において国際社会がいかに変化しつつあるのか、そして今後どのような国際社会を展望していくべきかを考えます。入学後は、大学における基礎的な知識を身につける科目や、国際社会学・国際関係論科目を学び、その後に「国際社会・文化」、「国際社会ガバナンス」、「環境資源政策」、「持続可能開発」といった分野の専門知識の習得を目指します。また3・4回生次には、APUの学習を基礎に、フィールドワーク、プロジェクト研究、インターンシップなどキャンパスを超えての学びも積極的に展開します。

APMとは？

APMはアジア太平洋マネジメント学部 (College of Asia Pacific Management) の略称であり、現在APUにある2つの学部のうちの1つです。APMでは経営学の理論を基礎に、近年急速な速さで発展を続けるアジア太平洋地域におけるビジネスの展開と、そこから発生する問題について実践的に学びます。

4年間の課程において卒業に必要な要件を満たすことにより、最終的には学士（アジア太平洋マネジメント学）が与えられます。

アジア太平洋マネジメント学部（APM）の専門教育の基礎となるのが国際経営学です。20世紀における企業活動の発展は、企業のマネジメントを発展させてきました。経済のグローバル化とITに代表される技術のイノベーションは、企業のマネジメントのあり方を根本的に変革させており、国際経営学はこうした状況を読み解く学問分野です。APMではこの国際経営学の基礎を学んだ上で、さらに具体的な「マーケティングと企業戦略」「会計とファイナンス」「国際ビジネスと比較経営論」「ニュービジネスとイノベーション」の4テーマでマネジメントを学習していきます。

積極的な交流を通じ、地域社会の国際化と活性化に貢献

地域社会の国際化と活性化に寄与することは、APUの重要な使命の一つです。開学前から地域でのネットワーク作りを目指し、開学後は、キャンパス内外でAPUの学生と県民・市民が、イベントや行事の参加を通じて交流を深めています。

大分県内外の市や町と友好交流協定を締結し、様々な交流事業を進めています。友好交流協定の自治体も含めて、毎年延べ1,000名以上の学生が県内外の様々な交流行事に参加しています。

ホームステイ受入のホストファミリーの登録数は約150世帯となり、多くの留学生を受け入れていただいております。また、国際理解教室等の学校教育への協力も促進されています。

APUホームステイプログラム

大分県は、留学生数人口比が東京に次ぐ全国2位の国際都市です。APUでは、この恵まれた環境を活かして、学生と地域の方々が「お互いの異文化を理解する」という真の国際交流を図りたいと考えています。APUで学んでいる国際学生に、ホームステイプログラムを通じて、是非、日本の文化や習慣に触れる機会をご提供いただき、また私たちも今まで知らなかった異文化の世界を学んでみませんか。

ホームステイプログラムは3種類あります。それぞれのご家庭にあったコースを選んでいただき、それに基づいて学生を紹介いたします。興味のある方は、お名前、郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレスをご記入頂き、件名入力欄に「ホストファミリーボランティア登録希望」とお書き添えの上、下記までE-mailをご送付ください。折り返し、ホストファミリーボランティアの登録書類を郵送させていただきます。（文責：田原）